



日本製紙釧路工場が紙生産からの撤退を発表

大企業の社会的責任をはたし、工場を存続して雇用と地域経済を守れ!!



11月5日、日本製紙は釧路工場における紙の生産を来年8月をもって終了すると発表しました。釧路市や地域にとっては「寝耳に水」の重大発表です。村上千早しげ議員が、釧路市に問い合わせると、従業員への生産終了の説明も当日のメールで、きちんとした説明は翌日だったそうです。

発電事業は存続の見通しですが、製紙業務を中止すると、日本製紙の社員で250人、関連会社で250人の雇用がなくなります。会社は配置転換を行い、他の工場への異動で雇用は守ると言っています。しかし、転勤できない人もかなりの人数が出てくる心配があります。

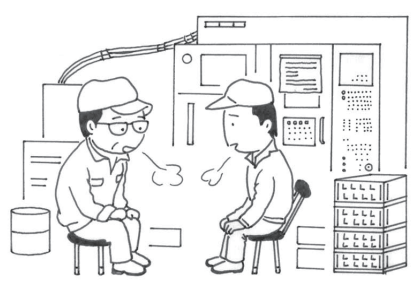


日本製紙と取引している地元業者はもちろんのこと、工場周辺の商店街、ひいては釧路市経済の土台を揺るがしかねない「大激震」です。

蝦名市長は6日夕方、商工会議所会頭、釧路総合振興局長などにも緊急の記者会見を開催、「到底納得できない、操業再開を求めたい」と述べました。市長は、近く商工会議所、市議会代表ともに上京して、野沢徹社長に面会して直接、会社存続を求める予定です。

翻弄される社員と地域

●会社は製造ラインの縮小などを決めても事前には社員に知らせません。社内メールで知った人は一部だけ。私も先行した報道を見つけた人が教えてくれて知りました。正直経営が厳しいの知っていましたが、「あと何年かは持つだろう」とみんな思っていました。今のタイミングとは予想もしていませんでした。



●釧路工場はほとんどの社員が地元採用、転勤なんて考えていなかった人が大半です。私も65で年金が出るまで、釧路で働こうと思っていました。家族をどうする？家は？と考えると決められません。全員を転勤させるということですが、「転勤先は道内にはない。道外だけ。」との話も出ています。私は来年58歳。2年で定年です。から本当に転勤先があるか心配です。来年初めに転勤の希望調査も始まります。でも、本工はまだましです。関連会社の人たちは本工に転勤先が確保されているのでしょうか。（日本製紙の現職社員）

●10数年前に退職しましたが、当時は社員は700人で今は250人。ほとんど、正社員から関連会社に現場はシフトしています。関連会社の中でも何か所も事業拠点を置いている会社は転勤も可能ですが、関連会社の中には釧路工場一か所にしか、職場がないところもあります。そうしたところの社員は転勤もできません。（元関連会社の社員）

釧路市の製造出荷額

